

はり絵に託した風景たち

内田正泰

藤倉英幸展



内田正泰《びーひよろろ》1984年 はり絵 内田正泰記念アートギャラリー蔵

有島記念館では約1万点の「藤倉英幸コレクション」を所蔵しています。これは、現在も旺盛な制作活動を続けるイラストレーター・藤倉英幸[1948-]から2017年に寄贈を受けたもので、藤倉の手掛けた作品や印刷物などで構成されています。

1980年代、藤倉は「自分にしかできない仕事とは何か」と自問し、自らが生まれ育った北海道の生活風景―藤倉のいう「原風景」―を「切り絵」で描きます。

80年代後半からは、北海道の風景とさらに深く対峙し、それが持つ清涼な空気感と色彩の豊かさを的確に表現できる技法を模索。切り絵のように輪郭線を持たない版画表現から着想を得て、洋紙を用いた「はり絵」を手掛け始めました。その作品は、1992年以来、現在も継続しているJR北海道車内誌表紙絵などで広く親しまれています。

当館の藤倉コレクションは世界最大級のはり絵コレクションであり、「はり絵」全般を知り、普及させることも活動の軸に据えています。

そこで本展では、はり絵作家・内田正泰[1922(大正11)年-2019(令和元)年]を藤倉とともに紹介します。内田は建築を学んだのちに、藤倉同様に商業デザインの道で活躍しました。その後、デザインや色彩学を学び、それをもとにはり絵で風景を描きはじめます。自然には人間の心を育む力があるという信念のもと、色彩構成の知見に裏付けられた技法を用いて、感性豊かに描かれた作品は多くの人々を魅了しています。

この2人には「グラフィックデザイン」、「はり絵」、「風景」など多くの共通項があり、見る人によっては「2人の作品は似ている」と評する方もいます。さてあなたは2人の作品を、どう観てでしょうか。



藤倉英幸《夏が熱れてゆく》2019年 はり絵 当館蔵



内田 正泰

1922年、神奈川県横須賀生まれ。

1943年、横浜高等工業学校建築科

(現・横浜国立大学工学部)卒業。戦後はワタナベ製菓株式会社(現・クラシエ)に勤務して広告に携わる。1956年、アド・アートデザイン研究所設立して独立。1960年代からはり絵による表現をはじめ、1971年には、はり絵作品による個展を初めて開催した。日本各地の風景を感情豊かに描いた作品はテレビ、雑誌、商品パッケージなどに使用される。『光と風の詩 内田正泰はり絵画文集』(日貿出版)など画集多数。2019年没。神奈川県鎌倉市長谷に「内田正泰記念アートギャラリー」がある。



藤倉 英幸

1948年、北海道後志管内島野村(現・岩内町)生まれ。1974年にイラスト

レーターとして独立し、ポスター、パッケージ、装丁など商業デザインを幅広く手がける。1980年代に入ると、北海道の風景や人々の生活に目を向けた「切り絵」作品を発表。80年代後半からは「はり絵」による風景画を本格的に描きはじめ、自身のライフワークとする。その作品は、JR北海道車内誌表紙絵をはじめ、菓子や牛乳パッケージなどで広く親しまれている。『静かな風を聴きながら』(2013年、共同文化社)など画集多数。2017年にはり絵原画やポスターなどの印刷物約1万点をニセコ・有島記念館に寄贈。夏と冬に同館で定期展覧会を開催。

●関連イベント

藤倉英幸講演会「はり絵に託した風景たち」

日時 | 2023年7月22日(土)13:00開始(1時間半程度)
場所 | 本展会場(要観覧料)

●会期中のイベント

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 9月 2日(土) | 講演会「有島家と鎌倉」講師:小田島一弘(元・鎌倉文学館副館長) |
| 9月10日(日) | 講演会「有島家と九州」講師:財部智美(川内まごころ文学館学芸員) |
| 10月 9日(月・祝) | 若手演奏家コンサート 出演:河口しほり(声楽家)ほか |
| 10月28日(土) | イノヤマランドライブ 出演:イノヤマランド |

[交通アクセス] 自家用車 ― 札幌、新千歳空港より自家用車で約2時間
J R ― ニセコ駅より徒歩約30分(約2.5km)、タクシー5分
バ ス ― 道南バス[倶知安駅発]「有島記念館前」下車徒歩5分

[駐 車 場] 自家用車用約30台・大型バス用約15台完備

ニセコ・有島記念館

NISEKO, ARISHIMA TAKEO MEMORIAL MUSEUM
〒048-1531 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地 Tel 0136-44-3245

